

### 3.

## 夏の尾瀬 尾瀬ヶ原・尾瀬沼

鳩待峠 尾瀬ヶ原 見晴 尾瀬沼 大江湿原 沼山峠

2000. 7. 1. smmroze1.htm,smmroze2.htm by M. Nakanishi



尾瀬ヶ原から燧ヶ岳尾瀬沼を背景に水芭蕉



尾瀬ヶ原から燧ヶ岳

### 3.1. 尾瀬ヶ原 鳩待峠 尾瀬ヶ原 見晴

水芭蕉とタテヤマリンドウ・ワタスゲの群落



水芭蕉



タテヤマリンドウ



ワタスゲ



今年の梅雨は陽性 突如として雷と突風が吹き荒れる。柏ではピンポン玉大の雹が降りまた。水芭蕉見に行こうと思いつきながら もう6月の末。最後のチャンス。

6.30.夜 23:50 分発の東武深夜特急〔尾瀬 EXPRESS〕申し込もうと電話するとこの電車すべて東武観光でその日の昼までに予約しないとダメ。いつも急なぼくではダメ。

また群馬側から…。しかし、昨年の秋はタクシーでバス追いかけました。上毛高原駅停まる一番の新幹線で行くと沼田駅 8:10 分発の鳩待峠連絡大清水行に乗りたいがまにわず。今回は水芭蕉見るのが主。なんとか尾瀬ヶ原から尾瀬沼へも行きたいし……。ほかに手はないか 時刻表とくびっきき。

朝 4:30 分に起きて 柏 5:15 分発 いつもの電車。上野上越新幹線一番 6:10 分発。高崎で降りて 7:19 分発水上行普通電車に乗換え、沼田駅 7:58 分着ぱっちりでした。

上越の山に近づくとつれ、やはり霧の中 山はみえず。また 霧の中の WALKING になりそう。鳩待峠でバスを降りると霧がはれ、青空・至仏山の残雪が緑の木々の間から見える。絶好の日和。雨・霧を予想して雨具色々いれたが どうも必要なさそう。



土曜日というのに意外と人が少ない。やはり水芭蕉はおそいのか ゆっくり山見ながら歩こう。  
「尾瀬沼ひさしぶりに見えたらいいか 今日尾瀬ヶ原はさんで至仏と燧ヶ岳ばっちり見えそう」  
昨年 紅葉の山の中を歩いたのとは随分違う若葉と濃い常緑の樹木の中を山ノ鼻に向かって歩きだした。



至仏山を背景に尾瀬ヶ原



ヒメシャクナゲ



イワカガミ

2週間前 早池峰のブナの樹海を歩いたが 同じ時期なのに随分緑の感じが違う。  
やっとまわりを見ながら歩ける年になったのかなあ...と感じている。  
山ノ鼻について パッと緑の尾瀬ヶ原が広がった。  
うしろには どっしりとした至仏山 ずっと前方には薄く霞んで燧ヶ岳。印象の中にある夏の尾瀬ヶ原と随分ちがう。  
「水がない。水がすくない.....」



尾瀬ヶ原から燧ヶ岳

木道の両側は水びたしであちこちで水芭蕉の白い花が咲き、  
ちよろちよろ流れる水の音を想像していたが.....

まっすぐに燧ヶ岳に向かって続く木道の両側には何処までも続く緑の絨毯。  
緑の絨毯の中では高山植物が今をさかりと一斉に花をつけている。  
花の終わった水芭蕉の葉の列が木道の際に見える。やはり 水芭蕉が少ない。  
尾瀬ヶ原にももっと水芭蕉があったと思ったが季節が遅かった精もあるが.....  
もっとも そのお陰かもしれないが、尾瀬ヶ原はいろいろな高山植物が花を咲かせ 夏のお花畑。  
このお花畑を背景にした残雪の至仏山が美しい。この時期しか見られぬ光景かもしれない。

水芭蕉は尾瀬沼に行かないとどうもダメらしい。尾瀬ヶ原は高山植物の花の写真を撮りながら歩く。  
早池峰の高山植物の写真と合わせると今年は随分多くの花を見たことになる。  
名前を全くおぼえていない私。今度は帰ってきっちり照合して名前覚えようと思う。

青空の中、緑をいっぱい吸い込んだ静かな walking。木道のあちこちで「タテヤマ リンドウ」が青い小さな花をつけ群落を作っている。また その間には「イワカガミ」が、また水辺には名前を知らないが茎がクルッと丸くなった先に幾つか小さな鈴を付けたようなピンクの花がかわいらしい。

〔帰ってしらべると「ヒメシャクナゲ」〕

また 草花のバルに身を屈めてみるとこれら花の上に点々とワタスゲの群落が原っぱイッパイに続いている。こっちの原には茜色の「ツツジ」が群落をつくっている。



ワタスゲの群落

水芭蕉の季節ではなく 夏の尾瀬の様相かもしれない。東電小屋の近くには「あやめ」の群落が花をつけ始めていた。また 1輪だけではあったが、「ニッコウキスゲ」もみつけた。もう目の前に燧が岳が迫っていた



ニッコウキスゲ



アヤメ

尾瀬ヶ原は時期がちょっと遅かったとはいえ「乾燥化が進んでいる」

昨年 水芭蕉を見に行った奥美濃のヒルガノ高原の湿原も乾燥化し、水芭蕉は観光用に栽培されていた。それを見ているだけに心配になる。

「人が多く入り、人の手で整備され出したことが、乾燥化をもたらしているのか?」

「地球の温暖化がこの乾燥化をまねいているのか?」

今後や白神山地のことが話題になり、  
幾人かのジャーナリストの人達が言っていたのが、真実味を帯びて思い浮かんでくる。  
「自然を残すには 人が入らない事が一番。  
しかし 人が入らぬ 人が中身をしらぬ自然を残したって無意味」  
  
「自然の心を深く知って 自然に入って行く この道をどう模索するか...」尾瀬でも随分議論  
され、そのぎりぎりの方法として 今の方法が選択されたと思うが、  
30 数年前の尾瀬の印象が強烈に頭の中にあり、それとの違いに本当に戸惑い心配になった。

尾瀬を歩いている時は知らなかったのですが、

「大昔 広く北半球に分布していた樹木や植物が地球の寒冷化によって生きてゆけなくなった時代に、日本に取り残された仲間の一つに「ブナ マンサク ヒバ コウヤマキ 杉 トガサワラ」など温帯針葉樹と呼ばれる樹木がある。樹木ではないが、水芭蕉もそのような仲間」と歴史民俗博物館の辻誠一郎氏は言う。

「日本では見なれたブナや杉が地球上では日本近傍にしかない樹木だ」と。

(7月8日 佐倉歴史民俗博物館 セミナールで)

昔々はポピュラーだった種が、気候の変化に堪え、日本で延々と生き延びている。

水芭蕉もそんな仲間。

我々が惹かれるのもそんな中にあるのかもしれない。 2000.7.1. by M.Naanishi



### 3.2. 尾瀬ヶ原 から 尾瀬沼 へ

見晴・白 砂田代・沼 尻・尾瀬沼・大 江湿原・沼 山峠



見晴 十字路分岐



白砂田代の水芭蕉



白砂田代の水芭蕉

見晴から沼尻へは峠越えの山道。水が流れ出る沢の所々に水芭蕉が顔を出している。白砂乗越を過ぎくだりになり、白砂田代に出る。ここから沼尻まではもうすぐのはすだがまだ沼は見えず。この田代のふちの水場にも小さな水芭蕉。この田代の正面には堂々とした燧ヶ岳がみえる。尾瀬ヶ原とはまた違った光景。また 樹木の中へ入り、少し行くと平坦な沼尻平と尾瀬沼が現われた。



尾 瀬 沼

緑の絨毯。そして水辺には水芭蕉。やっと水芭蕉の群落に出会えた。でもやはり少ない。

尾瀬ヶ原からくらべるとこの沼尻平は人も少なく 本当に落ち着いてゆっくり歩ける。

湖面が周りの緑にはえて美しい。



沼尻尾瀬沼と水芭蕉

2時15分 三平峠の方へ行かず、反対側の湖岸を湖面と水芭蕉をながめながら尾瀬沼のふちを尾瀬沼ビジターセンターへ向かう。いよいよ時間との競争。4時10分 沼山峠発のバスに乗らないと檜枝岐から会津高原へは出られない。思った以上に登りがきつい。人に殆ど出会わないところを見ると反対側の湖岸を回った方が起伏小さく良いようだ。3時過ぎに大江湿原が広がるビジターセン

タ

のところにててきたが、人が非常に多い。

大江湿原にも点々と人の列。お花畑が美しい。

これで高山植物の咲く湿原ともお別れ。大江湿原越しに見える尾瀬沼、燧ヶ岳が美しい。



沼尻平から燧ヶ岳

大江湿原からまた樹幹の中に入り、またひと登り。時計と競争ではきつい。みんな暢気そう。大半が御

池小屋の駐車場に車おいているので、遅れても良いようだ。

やっと沼山峠。峠は沼を見下ろせる山の中。バスの停留所まではまだ山を下らねばならぬ。ほいほい急いでやっとバス停。ちょうど 4時でした。



大江山湿原から 尾瀬沼



大江湿原 長蔵小屋周辺

湯ノ花温泉へ行って明日田代山へ登ることも聞いてみたが、バス乗り継ぎなし。車が無いとやっぱり前日出て、湯ノ花温泉に泊まって翌日登るしかなし。今回はあきらめ。そのまま会津高原駅までバス。例によって会津高原夢の湯の露天風呂に一人浸かって、それから東武電車で帰路。また、長い1日の尾瀬が原縦断コース。

ちょっとつかれましたが、沢山の花に出会え、ワタスゲの群落も素晴らしいかったです。尾瀬沼で水芭蕉にも会えたし。水芭蕉の減少と尾瀬ヶ原の乾燥化がちょっと心配。また 今回も昔世話になった会津田島の熊野神社訪問お預け。会津田島の祇園祭 勇壮で美しい山車がでる有名な祭という。



田代山行くときか 会津祇園祭に是非訪ねたい。夢の湯につかって 川音をききながら そんなこと考えていました。

また、「地球の上で 太古の時代の群生から 日本でやっと生き延びて来た水芭蕉」辻さんの話を聞いて一層尾瀬の環境保護・地球環境の保護が気になり出しました。

2000.7.1. M. Nakanishi



### 3. 夏の尾瀬

鳩待峠 尾瀬ヶ原 見晴 尾瀬沼 大江湿原 沼山峠  
〔完〕